

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年2月13日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	1月の価格情報					2月 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	1月下旬の関東及 び近畿ブロックの 入荷量 ()内は、本年 と過去3カ年平均 値との比率	主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格			2月	2月					
	上旬	中旬	下旬							
キャベツ	96.86	99	92	99	96.86	・8,711t (98%)	愛知(67), 千葉(15)	平均価格 →	愛知産は、1月中旬以降の気温の低下及び干ばつの影響により生育遅れとなっていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、1月中旬以降の気温の低下の影響により現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。	
		(102%)	(95%)	(102%)						
たまねぎ	92.10	99	89	98	92.10	・2,983t (82%)	愛知(57), 大阪(10), 兵庫(8)	→	愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
		(107%)	(97%)	(106%)						
ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	83.77	76	78	81	83.77	・8,814t (117%)	北海道(84)	→	北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	83.77	74 (88%)	79 (94%)	77 (92%)	83.77	・3,874t (139%)	北海道(80), 兵庫(12)			
葉茎菜類	252.99	347	291	248	252.99	・2,443t (103%)	千葉(40), 埼玉(26), 群馬(13), 茨城(11)	→	千葉産は、1月中旬以降の気温の低下の影響による葉先の枯れが散見され、曲がり等の品質の低下もみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	473.04	536 (113%)	423 (89%)	418 (88%)	473.04	・190t (96%)	徳島(31), 三重(15), 高知(14), 香川(12)			
はくさい	64.18	87	85	79	64.18	・5,414t (90%)	茨城(67), 群馬(18)	→	茨城産は、最近の気温の低下の影響により生育が緩慢で小玉傾向となっており、一部で凍害による葉の傷みもみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、やや小玉傾向ではあるものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	68.70	99 (144%)	92 (134%)	86 (125%)	68.70	・2,045t (86%)	愛知(28), 茨城(22), 兵庫(18), 長崎(11)			
ほうれんそう	338.43	452	430	473	338.43	・989t (102%)	群馬(25), 茨城(25), 埼玉(21)	→	群馬産及び茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調で、露地作を中心に病害もほとんど見られないことから、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後はハウス作主体の出荷に移っていくことから平年並みの出荷の見込み。 群馬産及び茨城産の出荷が引き続き平年よりやや多めと見込まれ、埼玉産の出荷が平年並みに落ち着くと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年をやや上回って推移する見込み。	
	375.38	462 (123%)	463 (123%)	534 (142%)	375.38	・340t (88%)	徳島(38), 福岡(33), 群馬(11)			
レタス (結球)	233.85	165 (71%)	186 (80%)	231 (99%)	233.85	・2,848t (94%)	静岡(33), 香川(12), 茨城(12), 兵庫(9)	→	静岡産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、1月中旬以降の気温の低下の影響はあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、強風の影響で日々の出荷にばらつきはあるものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、前年の干ばつ傾向や1月中旬以降の気温の低下の影響で生育が遅れていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。 静岡産、香川産及び茨城産の出荷が引き続き平年並みと見込まれ、兵庫産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	226.75	162 (71%)	184 (81%)	230 (101%)	226.75	・769t (84%)	兵庫(41), 長崎(20), 徳島(18)			
きゅうり	370.98	358 (97%)	374 (101%)	370 (100%)	370.98	・2,882t (106%)	宮崎(32), 千葉(20), 高知(18)	→	宮崎産及び高知産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調であり、越冬作のほか一部春作も出荷し始めたことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	350.33	351 (100%)	350 (100%)	351 (100%)	350.33	・1,119t (100%)	宮崎(42), 高知(25), 徳島(17)			
トマト (大玉)	349.23	381 (109%)	372 (107%)	374 (107%)	349.23	・2,668t (95%)	熊本(34), 栃木(19), 愛知(12)	→	熊本産は、主に前年の天候不順の影響で着果不良となった段からの出荷となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は生育の遅れにいたる分の出荷が見込まれることから、平年よりやや多めの出荷となる見込み。愛知産は、9月から10月の天候不順の影響で根張りが良くなく草勢が弱いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、熊本産及び愛知産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	326.61	373 (114%)	350 (107%)	355 (109%)	326.61	・864t (86%)	熊本(77)			
なす	389.03	371 (95%)	403 (104%)	423 (109%)	389.03	・791t (97%)	高知(64), 福岡(16)	→	高知産は、12月以降の気温が高めに推移し、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、11月の天候不順の影響により草勢が弱いことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、1月の好天で草勢が回復しつつあることから、今後は次第に出荷量が回復し平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	397.74	357 (90%)	399 (100%)	414 (104%)	397.74	・319t (110%)	高知(42), 熊本(26), 福岡(18)			
ピーマン	578.80	464 (80%)	545 (94%)	584 (101%)	578.80	・641t (112%)	宮崎(43), 高知(21), 鹿児島(18)	→	宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、草勢は弱めであるものの、12月以降の気温が高めに推移し、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、定植期の台風の影響等で十分な出荷量の増加が期待できないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 宮崎産、高知産及び鹿児島産の出荷において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年をやや上回っている価格は、引き続き同水準で推移する見込み。	
	565.30	377 (67%)	495 (88%)	551 (97%)	565.30	・375t (131%)	宮崎(47), 高知(24), 鹿児島(14)			
だいこん	79.03	83 (105%)	69 (87%)	75 (95%)	79.03	・6,176t (96%)	神奈川(54), 千葉(32)	→	神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、12月の気温が高めに推移し、生育は順調で太りも良いことから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は作の切り替えによる端境を迎えることから、平年並みの出荷の見込み。 神奈川産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	80.47	80 (99%)	67 (83%)	68 (85%)	80.47	・3,554t (102%)	長崎(33), 鹿児島(30), 徳島(21), 和歌山(13)			
にんじん	111.16	137 (123%)	139 (125%)	139 (125%)	111.16	・4,172t (94%)	千葉(80)	→	千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いものの、播種期の台風等による苗の流亡等の影響から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	109.97	119 (108%)	123 (112%)	125 (114%)	109.97	・1,141t (87%)	鹿児島(70), 愛知(14)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均卸売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が変動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	1月の価格情報					2月 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	1月下旬の関東及 び近畿ブロックの 入荷量 ()内は、本年 と過去3カ年平均 値との比率	主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平 均販売価格			(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格					
		上旬	中旬	下旬						
いも類	さといも	228.85	242 (106%)	226 (99%)	225 (98%)	228.85	・352t (114%)	千葉(34)、埼玉(33)	→	千葉産は、計画的出荷ではあるが、年明け後も高い需要が続き、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は需要も落ち着くと見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		219.65	282 (128%)	237 (108%)	234 (107%)	219.65	・102t (109%)	愛媛(61)、宮崎(21)		
	ばれいしょ	96.99	180 (186%)	180 (186%)	190 (196%)	96.99	・3,895t (78%)	北海道(59)、鹿児島(30)、長崎(10)	→	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などで歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、順調な生育となっており、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		96.99	171 (176%)	174 (179%)	179 (185%)	96.99	・1,373t (77%)	北海道(71)、鹿児島(24)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	1月の価格情報					2月 (参考) 過去5カ年 平均価格	1月下旬の東京及び 大阪市場の入荷量 ()内は、本年 と過去3カ年平均 値との比率	主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 過去5カ年 平均価格	東京・大阪市場の旬別価格			(参考) 過去5カ年 平均価格					
		上旬	中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	385.82	301 (78%)	425 (110%)	465 (121%)	356.04	・600t (89%)	愛知(39)、香川(21)、埼玉(13)	→	愛知産は、気温の低下により生育が緩慢となる時期ではあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、1月中旬の気温の低下により品質の低下がみられるものの、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。
		417.58	290 (69%)	427 (102%)	487 (117%)	367.08	・190t (88%)	徳島(31)、長崎(16)、香川(14)		
根菜類	ごぼう	318.13	540 (170%)	440 (138%)	435 (137%)	316.11	・304t (110%)	青森(70)、茨城(12)	→	青森産は、12月に収穫が終わり、現在貯蔵物からの出荷となっているが、8月末の台風の影響により細物や短物など下等級品が見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		188.58	291 (154%)	290 (154%)	297 (157%)	196.38	・201t (77%)	茨城(41)、青森(22)		
果菜類	かぶ	152.86	166 (109%)	135 (88%)	147 (96%)	143.42	・392t (90%)	千葉(88)	→	千葉産は、生育は順調であるものの、播種期の天候不順による生育遅れの影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		137.79	172 (125%)	126 (91%)	147 (107%)	140.01	・77t (70%)	徳島(47)、福岡(32)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成24～28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

貿易統計によると、12月の生鮮野菜の輸入量は7万8千トン(前年同月比123%)と、9月(同130%)、10月(同113%)、11月(同162%)と4カ月続けて前年を大幅に上回り、28年1～12月の輸入量は8万6千2千トン(同104%)となり、2年ぶりに前年を上回った。

28年上半期では、輸入量の多いたまねぎが中国産の天候不順の影響などで前年を下回り、生鮮野菜全体が下回ったものの、下半期は、ブロッコリー、にんじん及びかぶなどをはじめとした国産の多くの品目が、天候不順の影響により価格が上昇したことから、生鮮野菜全体の輸入量が増加した。

また、輸入量の多い加工野菜も12月は1万6千トン(同106%)と前年をかなりの程度上回り、28年1～12月の輸入量も1万7千6千8千トン(同102%)と前年をわずかに上回った。

このうち、中国産の輸入数量合計は1万3千トン(同108%)で、輸入数量合計の半数以上を占め(55%)、4カ月連続で50%を上回った。28年1～12月の輸入量は1万3千6千6千トン(同101%)と前年をわずかに上回った。

なお、12月の輸出量は、加工・業務用などに使用される加工野菜が、1万1千7千2千トン(同115%)と伸びたものの、生鮮野菜が5万5千9千6千トン(同74%)と前年を大幅に下回ったことから、野菜全体では6万7千6千7千トン(同79%)と、前年を大幅に下回った。28年1～12月の輸入量は8万6千2千4千1千6千トン(同105%)となり、2年ぶりに前年を上回った。

1. 野菜の輸入数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年12月		平成28年1月～12月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	884,735	104	826,845	93	78,144	123	862,416	104
加工野菜	1,785,487	96	1,752,337	98	160,166	106	1,768,198	101
野菜合計	2,670,222	99	2,579,182	97	238,310	111	2,630,614	102
うち中国産野菜合計	1,409,604	100	1,355,491	96	130,135	108	1,365,785	101
中国産シェア	53		53		55		52	

1-1. 主な生鮮野菜の輸入先(平成28年12月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	22,240	中国	20,860	米国	1,362	インド	10	
かぼちゃ	16,270	メキシコ	16,173	トンガ	75	豪州	23	
にんじん及びかぶ	7,815	中国	7,421	豪州	375	米国	19	
ねぎ	5,420	中国	5,420					
ごぼう	4,858	中国	4,834	台湾	24			
ジャンボピーマン	3,614	韓国	2,826	ニュージーランド	785	オランダ	2	
結球レタス	2,491	台湾	2,031	米国	460			
キャベツ	2,217	中国	1,986	米国	121	ベトナム	47	

1-2. 同輸入先(平成27年12月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	19,507	中国	18,989	米国	490	オランダ	28	
かぼちゃ	12,984	メキシコ	12,984					
にんじん及びかぶ	5,089	中国	5,041	豪州	27	米国	11	
ねぎ	4,759	中国	4,755	ベトナム	3			
ごぼう	4,964	中国	4,927	台湾	37			
ジャンボピーマン	3,210	韓国	2,388	ニュージーランド	817	オランダ	5	
結球レタス	1,811	台湾	1,746	米国	65			
キャベツ	1,234	中国	1,064	韓国	170			

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」) ※四捨五入の関係上、合計と国別の数字は一致しないことがあります。

2. 野菜の輸出数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年12月		平成28年1月～12月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	9,573	98	22,992	240	5,596	74	31,867	139
加工野菜	7,857	76	9,510	121	1,172	115	11,077	116
野菜合計	17,429	88	32,502	186	6,767	79	42,944	132

2-1. 主な生鮮野菜の輸出先(平成28年12月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ及びジャロット	4,425	韓国	4,206	台湾	214	シンガポール	5	
ながいも	498	台湾	288	米国	161	シンガポール	42	
にんじん及びかぶ	196	台湾	196					

2-2. 同輸出先(平成27年12月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ及びジャロット	6,216	韓国	5,985	台湾	145	オランダ	40	
ながいも	969	台湾	576	米国	335	シンガポール	52	
にんじん及びかぶ	2	香港	2					

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載厳禁 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。